

国分寺駅南口駅前広場再整備基本方針(案)

はじめに

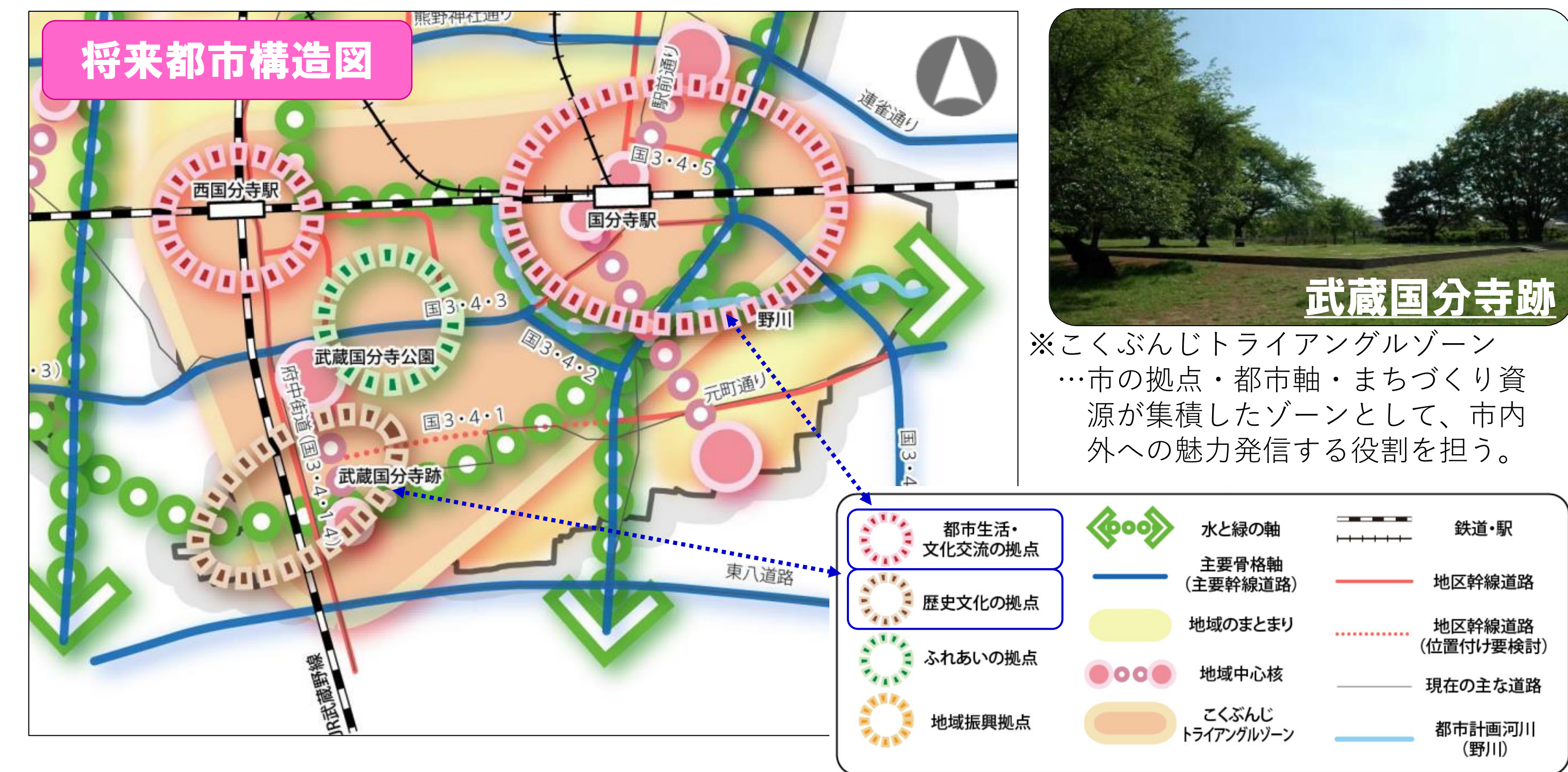
国分寺駅南口駅前広場（以下、駅前広場）は整備から数十年が経過し、施設の老朽化が進む中、交通の安全性と利便性、広場空間の使い方などを改善する時期を迎えています。

そのため国分寺市では、駅前広場の土地所有者である東日本旅客鉄道株式会社（以下、JR）と協定等を締結し、維持管理を引継ぐと共に、令和4年度から交通量調査や再整備の方向性に関するオープンハウスの実施、周辺の商店会等へのヒアリング、交通管理者（警察）や交通事業者（バス・タクシー等）との協議等、各種検討を進めてきたところです。

本整備基本方針（案）は、そうした検討の積み重ねを経て、再整備の基本的な考え方を定め、今後の具体的な設計、工事に向けた指針を定めたものです。

駅前広場の再整備コンセプト（駅前広場の目指す姿）

一駅前広場の再整備コンセプトの基本的な考え方は、市のまちづくりにおける上位計画となる「国分寺市都市計画マスタープラン」（以下、マスタープラン）から整理します。一



国分寺駅南口（周辺）は、マスタープランにおける市の将来都市構造図より、こくぶんじトライアングルゾーン※の一角を成しており、市内で最大の「都市生活・文化交流の拠点」として位置づけられています。また国分寺駅南口は、歴史文化の拠点として史跡整備が進む「武蔵国分寺跡一帯」へ繋がる玄関口の一つでもあります。

以上を踏まえ、ゾーン内の更なる魅力向上と連携強化を図るため、駅前広場の再整備コンセプトを次のとおり定めます。

再整備コンセプト

歴史・文化交流の拠点をつくる国分寺の玄関口

次ページにて、駅前広場の現況・課題と再整備の方針について示します。⇒

駅前広場再整備の基本的な考え方

一駅前広場再整備の基本的な考え方は、前述の再整備のコンセプトと方向性に加え、市の最上位計画である「国分寺市総合ビジョン」（以下、ビジョン）において、中心事業として挙げられている「駅前広場再整備の目的」を踏まえて整理します。一

ビジョンにおける駅前広場再整備の目的（施策20：市街地整備-中心事業②より）

公共空間としての機能向上

交通環境改善

バリアフリー対策

再整備の基本方針

国分寺の玄関としてふさわしい駅前広場

国分寺らしさ・史跡武蔵国分寺跡など市の魅力あるまちの資源が集積するエリアの玄関口としてふさわしい駅前広場
滞留空間の確保などにぎわいの創出

安心・安全な駅前広場

全ての人々が安心・安全に利用することができる歩車道整備
他の交通手段と乗り換えしやすい駅前広場整備
非常時に利用可能な空間整備

将来にわたり、誰もが利用しやすい駅前広場

バリアフリー化に加え、ユニバーサルデザインに配慮することで、誰もが利用しやすく、利用者に長年愛される駅前広場整備

上記の実現に向け、以下のスケジュールで各種検討・工事を進めてまいります。

今後のスケジュール

一駅前広場の再整備は、令和10年度からの工事着手に向けて、駅前広場の利用者の方などを対象とした意向調査や関係機関協議を行いながら、各種検討を進めてまいります。一

再整備スケジュール

R7年度

- ・地形測量
- ・概略検討
- ・駅前広場利用者等への意向調査

R8年度

- ・基本設計
- ・整備計画案の作成
- ・駅前広場利用者等への意向調査

R9年度

- ・整備計画の策定
- ・詳細設計

R10年度～

- ・工事

令和7年度は、今後の詳細な設計に必要な情報を収集するための地形測量と、駅前広場内の各種施設の意匠性や基本的な配置を検討する概略検討を行いました。

令和8年度は、バス・タクシー等の乗降場の配置や歩行者や車両の動線計画、ベンチやシェルターなど各種施設配置の検討といった基本設計を行いながら、駅前広場の利用者の方などを対象とした意向調査を実施した上で、整備計画案を作成し、皆様から広く意見を聞きながら、令和9年度にかけて策定を目指します。

令和9年度は、基本設計の内容を踏まえた駅前広場内の車道や歩道の勾配検討、各種施設の仕様の細部検討といった詳細設計を行い、令和10年度からの工事着手を目指してまいります。

また各年度では、進捗状況に応じた関係機関との協議・調整を行ってまいります。

お問い合わせ先

国分寺市 まちづくり部 駅周辺整備課
〒185-8501 東京都国分寺市泉町二丁目2番18号 TEL：042-312-8662

現況・課題と再整備の方向性

— 交通処理の課題、駅前広場の利便性向上、歩行者の安全確保、バリアフリー化やにぎわい空間が不足している課題を踏まえ、再整備の方向性を示します。—

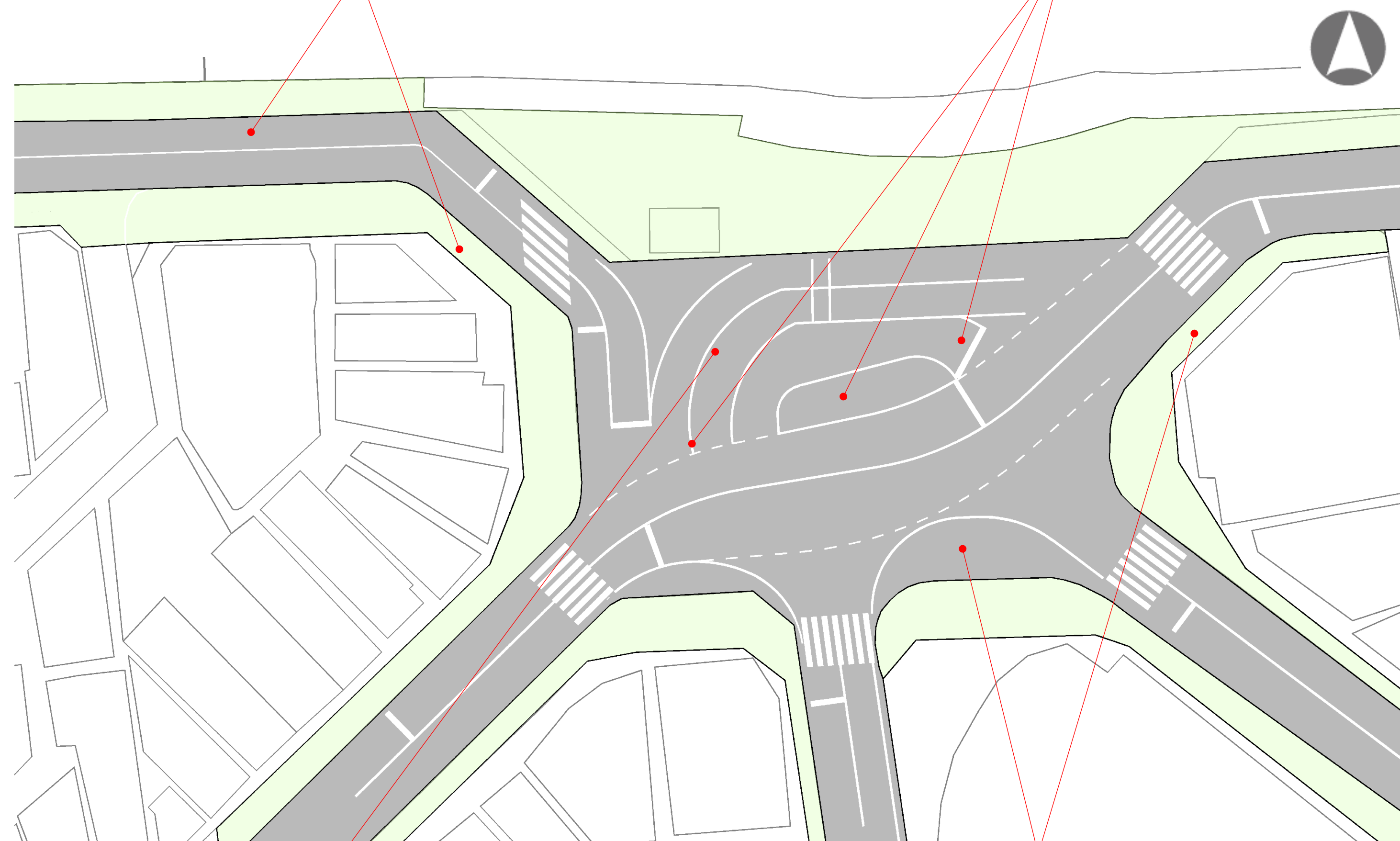
【整備前】

課題① 交通渋滞と狭小な歩道

- ・市道南115号線において、違法駐車などによる交通渋滞が発生しています。
- ・歩行、滞留空間としては狭い部分があるため、歩行者の安全確保が難しい箇所があります。

課題② 不明瞭な車両動線

- ・現況は区画線で明示しているものの、ロータリーの出入口やJR荷捌き場、都道が一体的に見え、運転者が戸惑う構造となっています。



課題③ 車道中心の空間構成

- ・現在は歩行者空間等に対し車道空間が多く占めていることから、イベントの開催などにぎわいの創出に対し、支障となっております。

課題④ バス停からの乱横断

- ・バス停から駅に向かう途中の横断歩道前の歩行者空間が狭いこともあり、早朝の時間で駅に向かって都道を乱横断する歩行者が一部見られ、安全上の課題があります。



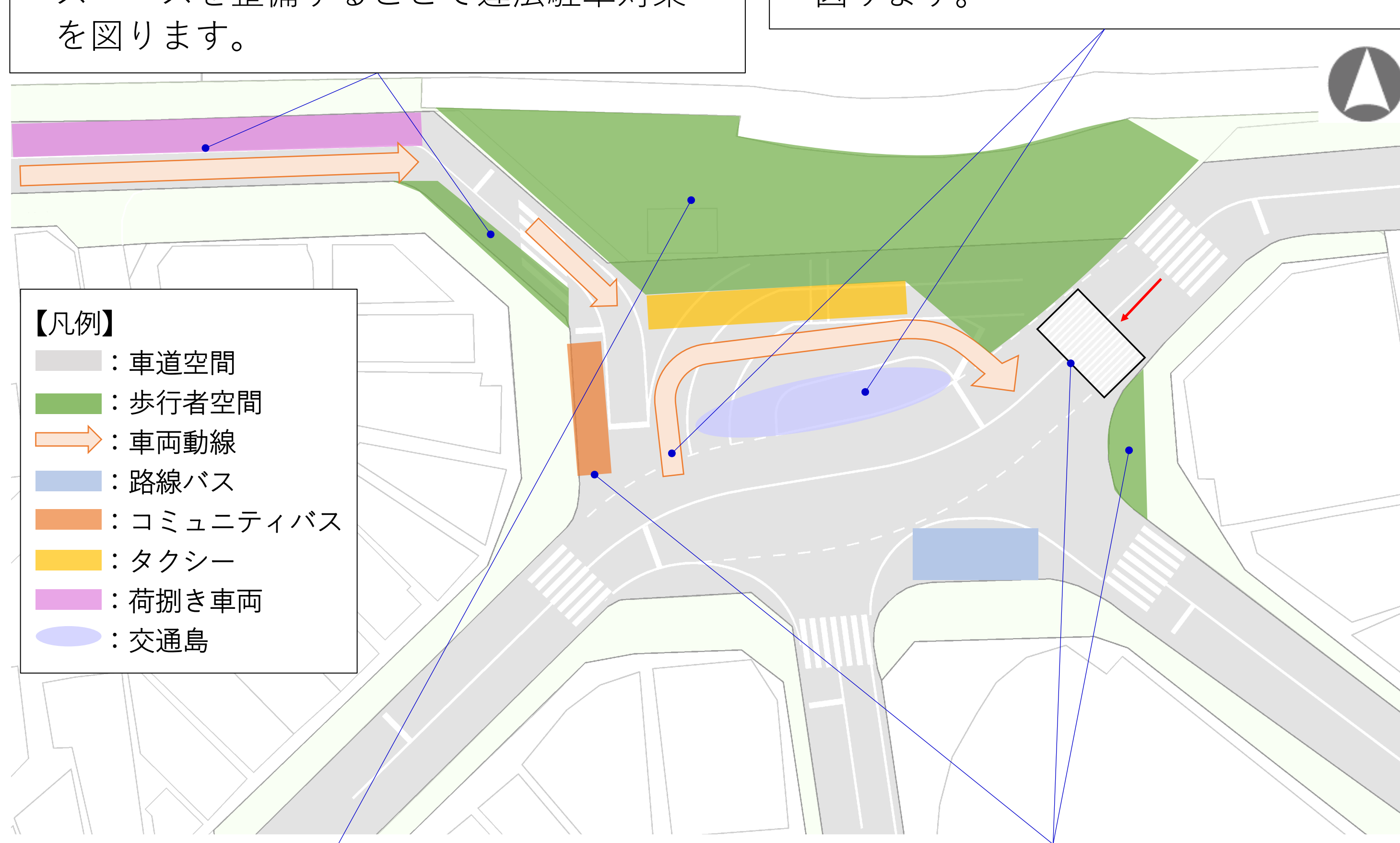
【整備後】

方向性① 市道南115号線一方通行化

- ・令和4年度の交通量調査を基に、本路線を一方通行化することで、交通を整流化します。また歩道を拡幅することで、歩行者の安全の確保を図ります。
- ・一方通行化に併せて、JRも含めた荷捌きスペースを整備することで違法駐車対策を図ります。

方向性② 車両動線の集約

- ・都道からロータリーへの進入路を一本化することで、車両動線を集約します。
- ・ロータリーと都道との間に交通島を設けることで、車両動線の明瞭化を図ります。



方向性③ 歩行者空間の拡充

- ・にぎわい創出のため、歩道の拡幅、広場空間の拡張を行います。
- ・駅前広場は、バリアフリー化やユニバーサルデザインに配慮した空間形成をします。

方向性④ ぶんバスのバス停移設と駅への安全な歩行者動線確保

- ・ぶんバスのバス停をロータリー内に移すことで、利用者の安全を確保します。
- ・植栽帯を歩行者空間として整備するとともに、横断歩道を駅への最短動線になるよう移設します。



出典「まちなかにおける道路空間再編のデザインガイド」

出典「令和2年度 ストック効果パンフレット」